



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第
10号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第10号). 泌尿器科紀要 1958, 4(10): 600-600

ISSUE DATE:

1958-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111662>

RIGHT:

編集後記

別掲の如く第1回日本泌尿器科学会関西地方会が発足した。その成立までにはかなりの迂曲もあつたが、とに角発会にまで消ぎつけて、諸方から祝辞や激励の言葉を頂いた。当日の参加者は関西地域は勿論、遠くは福岡、広島、岡山、徳島、名古屋、岐阜、津などからも顔が見え、合計約120名という盛会であり、この事からも、この会が発生したことは大局から見て良いことであつたとの確信を抱くことが出来た。願わくば今後の順調な発展を祈ると共に、マンネリズムに陥らないように、何か特色のある学会に育てたいものと思う。それには緊張らずになるべく自由に発言討議するような雰囲気を作るのがよく、それはこのような小さな学会に於て可能であろうと考えられる。

筆者の考えでは、従来の近畿皮泌科集談会は時勢の推移、諸般の事情によつて、改革せられるべき点が多くなつて来たので、これを改組して関西地方会が発足したと考えたいが、これに賛成でない意見もあろう。即ち従来の近畿皮泌科集談会はそのままに残して置くとも考える人もあろうと思う。人間はそれぞれ顔が異なるように意見も異なり、一律にゆかないのは当然である。筆者にどこまでも自分の考えを押し通そうとするわけではない。自然に落ちつく所に落ちつくであろうから、当分はその成り行きを見ているより致し方がない。



10月5日名古屋で第3回日本不妊学会が開かれた。参会者は約300名、学会の内容は産婦人科関係のものが大部分で、泌尿器科関係は一部分であり、畜産関係は更に少部分であるが、妊現象の研究は男女、雌雄の両方面から行う必要のあることは勿論で、更に男子機能研究には婦人科の研究も大いに役立つことを感じた。ここにこのような性格の学会が存立する意義があると思う。

一般に学会の運行はなかなか難しいものであるが、この学会も演者の声が小さかつたり、早口で原稿を読み流したり、図表が多過ぎたり、時間を超過したりしている状態で、やはり何とか新機軸の生れることを切望する。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金を1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部